

「研究部会」の取り組み

神原中：○新垣頼子・小橋川一・與儀愛
知念常美・宜寿次力・仲原英孝
澤岬優子・日高純理・遠藤大輔
下里美可・屋嘉部彰子
神原小：◎大城まゆみ・田島智代
砂川瞳・河辺志保・中山盛弥
壺屋小：○西本ゆかり・小橋川共啓
照屋由紀子

1 取り組みの趣旨

研究部会は「小学校から中学校までの学びの連続性」に視点を当て、下記の2点をねらいとした。

- (1) 学びの連続性を生かす指導方法の工夫を行い授業改善を目指す。
- (2) 小学校・中学校の授業を見合うことでお互いを理解するとともに、児童生徒の発達段階を踏まえた指導に生かす。

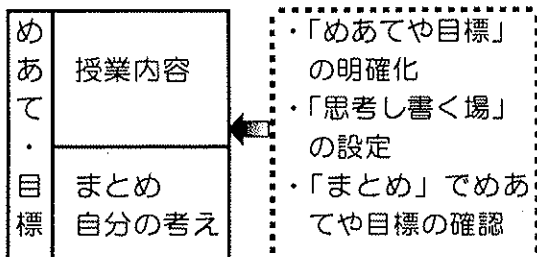
以上のねらいを踏まえ、「ノート指導の工夫」「乗り入れ授業」「合同授業研究会」を実施し、統一テーマである「自ら考える力を育て社会性を身につけた児童生徒の育成」を目指す。

2 取り組み内容及び実践報告

(1) ノート指導の工夫

研究部会では、小中統一テーマ「思考力・判断力・表現力を育てるノート指導の工夫」を設定し、小1から中3までのすべての教科で書く活動を重視した研究に取り組んでいる。前年度に行った3校での実施事項は以下の3点である。

- ①全教科で「書く」を意識した授業。
- ②市販されている研究会のノート使用の際も児童生徒がその時間の学びを書くことができる授業。
- ③まとめを自分の考えや自分の言葉で書ける授業。



今年度は、前年度の実践に加え、次の点について取り組んだ。

- ④教科のノートの特徴を生かしたノート形式の工夫を明確にする。
- ⑤授業改善に視点をあて、児童生徒の考えを書かせる場を各学年、各教科で充実させる。
- ⑥「思考力・判断力・表現力」の変容を見取るための検証方法を検討し、実施する。

(2) 乗り入れ授業

今年度も普段の教育活動の中で、小学校と中学校の教諭が「お互いを知る」ことをねらいとして、乗り入れ授業を実施した。

平成25年度相互乗り入れ授業の方針(概要)

1 ねらい：お互いを知る

(1) 教諭側から

- ①小中学校の児童生徒の様子を知る
- ②小中学校の指導方法を知る

(2) 児童生徒側から

- ①中学校の先生に慣れ親しむ
- ②小学校の先生とつながっていることを感じ取る

2 相互乗り入れ授業の方法

(1) 乗り入れ授業Ⅰ

→年間を通して中学校教諭が小学校で授業を行う。

(2) 乗り入れ授業Ⅱ

→中学校の教諭が専門知識を生かした授業を小学校で行う。

(3) 乗り入れ授業Ⅲ

→小中の教諭が時間の調整を行った上でT2で入る。

①乗り入れ授業Ⅰ

中学校大川教諭が、壺屋小学校（1学期）、神原小学校（2学期）の6年生に算数の授業を行った。

②乗り入れ授業Ⅱ

小学校の教諭側からの要望により、中学校の教諭が乗り入れ授業を行う。また、その逆の形もある。授業内容を計画し、コーディネーターを通して日程調整を行う。その後、担当教諭による打ち合わせ、授業実施となる。

今年度の実施は、以下の通りである。
ア 5月31日（金）中学校平田教諭が、壺屋小6年生に理科の授業を実施。



イ 6月14日(金)
中学校新垣教諭(音楽), 知念教諭(国語)が6年生に授業を行った。



ウ 9月3日(火)
中学校田名教諭が, 5年生に体育「リレー」の授業を行った。



エ 9月5日(木)
中学校澤岨教諭が, 小学校3年生に英語「スポーツは好きですか?」の授業を行った。

オ 11月15日(金) 中学校田名・屋嘉部教諭(体育), 宜寿次教諭(社会), 田教諭(美術), 與儀教諭(理科)が, 神原小学校6年生に授業を行った。

③乗り入れ授業Ⅲ

小学校の教諭が専科の入っている時間等を利用して, 中学のクラスにT2で入る。教科や入る時間は調整するが, 基本的にはT2なので各教科可能である。「教諭がお互いを知り, 指導力の向上を目指す」ための乗り入れ授業のタイプである。

今年度は, 7月17日(水) 英語「ONE WORLD(3) Project 自分達の町のガイドブックを作ろう」において, 神原小学校河辺教諭が神原中学校3年生にT2を実施した。

また, 8月19日~23日には, 神原中学校に壺屋小学校・神原小学校の教諭が, 授業参観及びT2を実施した。

(3) 合同授業研究会

3校の教諭が一同に会し, 小中一貫教育の実践について研究を深める事を目的に合同研修会を実施した。

また, 教諭の指導力を目指し, 合同授業研究会を3校で実施した。授業後の研究会では, 共通の視点を持ち, 小中の教諭が互いの意見交換を行った。

活動名	月日	内容
第1回授業研究会	6/21	神原小: 道徳
第2回授業研究会	9/11	壺屋小: 社会
第3回授業研究会	10/4	神原中: 英語



① 6月21日
神原小学校4年
喜名由美子教諭
道徳「得意なことを
伸ばそう」



② 9月11日
壺屋小学校6年
下地律子教諭
社会「近代国家への
歩み」



③ 10月4日
神原中学校2年
上間里花教諭
英語「Halloween
Party」



今年度は, 3校が共通の視点を持ち, 授業研究会を行った。

また, 授業後の研究会では, 講師を招聘しての勉強会やワークショップ型のグループ討議を行った。

3 まとめと考察

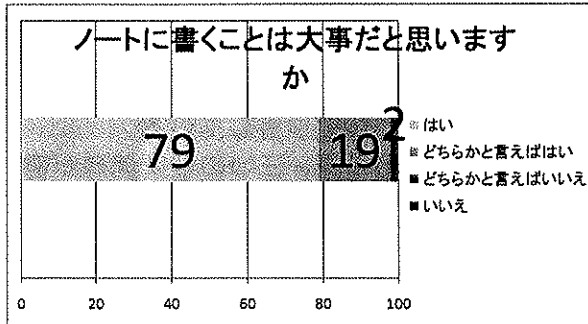
2年次の研究にあたり, これまでの研究内容が有効であったか検証を行った。

検証方法として, 教諭や児童生徒へのアンケートの実施と児童生徒の実際のノートから「思考力・判断力・表現力」の変容についてを検証した。

(1) 児童アンケートについて, 6年生の児童に「書く」活動に関するアンケートを実施し, 意識の変化を見た。1学期に同じ内容のアンケートをとることはできなかったため, 12月のアンケートには, 「4月に比べて, ノートに書くことで変わったことは何か」という項目を設けた。

アンケート項目内容

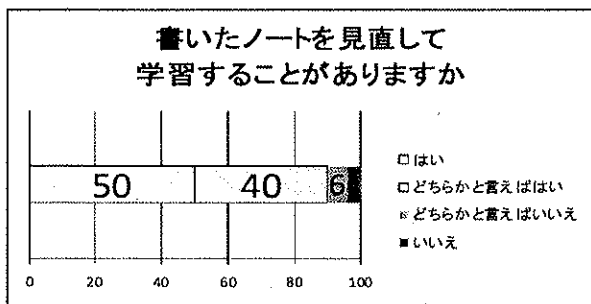
	項目
1	あなたは毎時間、ノートを書いていますか。
2	ノートに書くことは大事だと思いますか。
3	ノートには、どのようなことを書いていますか。
4	書いたノートを見直して、学習することがありますか。
5	4月に比べて、ノートに書くことで、変わったことは何ですか。



《考察》

ノートに書くことは大事だと考えている児童は、「はい」「どちらかと言えばはい」を含めると98%である。児童からは、「自分のためになる」「復習、見直しができる」「成績が上がった」という理由があげられている。これはノートに書くことは、自分にとって役に立つという効果を児童が実感しているものと考えられる。

また、4月に比べて「きれいに書くことを意識している」「ノートのふり返りが見やすいようにまとめている」などのコメントからノートを工夫して書く意識が出ている。さらに「書く量が多くなったが、慣れることができた」「早く書くことができる」等から、ノートを書くことに抵抗を示さなくなっている児童も出てきた。



《考察》

「書いたノートを見直して学習することがあるか」について答えた児童は、「はい」「どちらかと言えばはい」を含めると90%である。

また、4月に比べて変わったこととして「自分の考えや友達のことをかけるようになった」「前の学習がすぐに思い浮かぶ」などを挙げている。児童は、分かったことを文字にしてノートに書くことが自分にとって効果があるものと実感していると思われる。

(2) 児童生徒のノートの記述から

小学校4年生A子の国語のノートから変容をみる。4月単元「やい、とかげ」全6時間の3時間目と、11月単元「ごんぎつね」全8時間中6時間目の問いに対する答えを比較する。

小学校 4年 国語

4月 「やい、とかげ」

問い「自転車がみつかった後のぼくについて答えましょう。」

どこで (町の外れの公園)

どんな様子 (どろまみれ)



小学校 4年 国語

11月 「ごんぎつね」

問い「ごんが兵十につぐないをする理由を二つ書く。」

①兵十がおっかあに食べさせてあげたくてとったうなぎを、ごんがいたずらのつもりでぬすんでしまったから。

②ごんがいわしを兵十の家に投げ入れて、兵十がいわし屋にぬす人と思われて、なぐられたから。

4月の時点でA子は、問いに対して、教諭の「どこで」「どんな様子」という指示により、答えを書くことができた。

11月になると、問いに対する答え方が、主語と述語を入れながら、自分で理由をまとめることができるようになっていく。これは、ノート指導を通して、自分の考えをまとめる場の充実により、A子の思考力・判断力・表現力の高まりに

効果があったと考えられる。

また、6年生のB男は国語の5月単元「迷う」では、1時間内で書くべき事をまとめることができず、書いた行数は、全体で9行で、自分の考えは4行のみであった。

11月単元「ぼくの世界、きみの世界」では、1時間内で書いた行数が41行になり、自分の考えも13行になった。

さらに、B男は12月のアンケートで「4月に比べ、まとめの時にわかったことがたくさん書けるようになった」「ノートに書くことが当たり前のよう感じる」という感想を述べている。ノート指導を通して、B男の思考力・判断力・表現力にも変容をみとることができた。

小学校 5年 算数「面積」

算数の授業の基本的な流れ(手立て)

- ①全13時間の単元計画表を作成し、表にはそれぞれのめあてを記載し、単元の見通しを持たせた。
- ②板書されている内容は、全てノートに書かせるように指導した。
- ③毎時間ノートを回収し、適用問題の解答を分析した。
- ④自分の考えや友達の考えを書く場面を設定した。
- ⑤まとめの部分はキーワードを与えなるべく児童の言葉でまとめられるようにした。

《考察》

①～⑤の手立てから、変容を見る。

- ①授業に積極的に参加するようになった。また、前時までの学習を振り返るようになった。
- ②板書されている内容を全て書くことができるようになった。
- ③単元テストの「知識・理解」「技能」の得点が伸びた。
- ④学習課題について児童の意見交換が活発になった。
- ⑤授業後の感想に前向きなコメントがみられるようになってきた。

ノート指導の工夫により、板書の記録と、児童が主体的に授業に取り組む態度に変容が見られた。

中学校 英語科 3年

「沖縄紹介ガイドブック」「異文化交流会のお礼文」について毎時の活動In my wordsで1日1文を作成し、考える→書く→口語表現の流れを作り、思考力・判断力・表現力につなげた。

思考力・判断力・表現力については、ループリックを用いて以下の基準を作成し評価した。

- A：新出単語・三つの柱・問題が書かれ、さらに余白等を利用して、工夫して学習している。
- B：新出単語・三つの柱・問題が書かれている。
- C：新出単語・三つの柱が書かれている。
- D：新出単語が書かれている。
- E：未記入

本時の課題にそって、単元毎の作成した文章の数を前年度と今年度で比較した。作成文章の平均の結果は以下の通りである。

	H24	H25
沖縄紹介ガイドブック	4.3	5.2
異文化交流のお礼文	3.7	6.7

《考察》

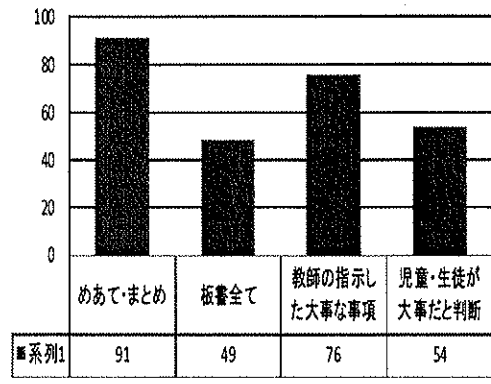
どの単元でも平成25年は前年度よりも平均文章の数が増え、表現力に伸びがみられた。

これは、教諭が教科の特性を生かしたノート形式の工夫を明確にしたことや授業改善に視点をあて、生徒の考えを書かせる場を充実させたことで、生徒の表現力を高めることができたものと考えられる。

- (3) 児童生徒は、学びの中でノートに意見や考えを書いたり、振り返りに活用したりと充実感を持っていることを確認することができた。

そこで次は、教諭がそのような授業を実施するためにどのようにノートを活用しているかアンケート調査を行った。

どのような内容を記入させているか



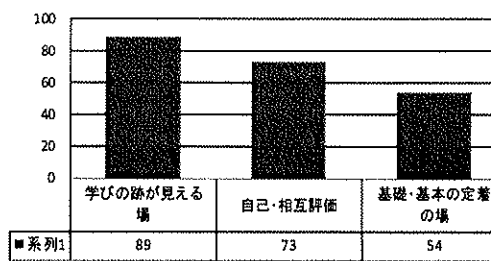
《考察》

教諭が「どのような内容をノートに記入させているか」について複数回答で尋ねた。

項目は①～④とあり、1番高い項目は前年度取り組んでいる「めあて」「自分の考え」「まとめ」の記入で、91%だった。続いて76%を示したのが、「教諭が指示した大事な事項」である。

「板書全てを記入させている」49%に比べて、「児童・生徒が大事だと判断した内容を書かせている」が54%と上回る。小・中学校の教諭が共通のテーマでノート指導の工夫に取り組むことで各教科とも9年間の学びに一貫性を持つことができたと考える。さらに、ノート形式の定着に加え、教諭が指示した大事な事項だけでなく、児童生徒が大事だと判断した内容を記入させている点においても思考力・判断力・表現力を高める手立てになっているものと考えられる。

ノートをどのように活用しているか



《考察》

児童・生徒のノートを評価に活用しているかについては、100%の教諭が活用していた。教諭が「児童・生徒のノートをどのように活用しているか」についてみると、「学びの跡が見える場」が89%と最も高かった。続いて、「自己評価・相互評価の場」としての活用が73%、「基礎・基本の定着の場」が54%となった。他にも「教諭自身のふり返し」や「思考力・表現力を育てる場として」と活用していた。

児童・生徒の学びを把握するために教諭がノートを活用し、どのように授業に取り組んだか教諭自身のふり返しにも活用できているものと考えられる。

また、教諭が児童生徒の学びの跡を活用しながら、授業改善へとつなげているものと考えられる。

- (4) 実践2年目を終えて
(教諭・児童のコメントより)

【教諭乗り入れ授業の成果と課題より】

小学校

- 中学校の学習のつながりを考えながら子ども達に見通しをもった指導ができた。
- 中学での学習の様子や内容に少し見通しがもてるようになった。T・Tで授業に参加することで、個に応じた指導ができた。
- 乗り入れ授業の取り組みは、神中登校日に実施するなど、互いの時間調整の確保を行う。

中学校

- 中学校の教科への興味関心が高まったと思う。
- 小学校で履修した内容を踏まえた授業を行い、中学校では更に詳しく（専門的に）なることを体験を取り入れて学習させた。
- 小中の先生方の授業を知ることで、9年間を見通した授業を意識するようになった。
- 打ち合わせ内容と時間の確保については、小中の教諭で調整する。

《考察》

乗り入れ授業に対する肯定的な捉え方が増えてきた。小・中学校の教諭がお互いを知り、授業の進め方や学習内容の深まり等を実感することで、教師の協働体制が必要なことを感じ取っているものと考えられる。

また、9年間を見通しての学びを理解することによって、それぞれの教諭が自らの指導方法を振り返る機会となり、授業改善の手立てとなっている。

【児童のコメントより】

- ・ 中学校の色々な先生方と接することができたので、とても新鮮に感じました。授業は、とても分かりやすく楽しく受けられたので、中学に不安無く入学できそうです。
- ・ 中学での授業は、小学校とほとんど変わりませんが、身なりに関してきちっとしているの、少し不安な所もありますが、中学校に入りがんばりたいと思います。
- ・ テイクオーバーゾーンという新しいことが覚えられてよかったです。中学校に行つての授業は、とても緊張感があり必死でした。だから、これからは頑張つて勉強していきたいと思つています。
- ・ ぼくは、きんちょうしながら行つた中学校の体験は、すごく楽しくて、中学校の不安が少し減りました。

《考察》

児童のコメントをみると、乗り入れ授業を実施したことで、①中学校への不安が減つたこと、②中学校の授業体験を通して、これから自分がやらなければならない課題や頑張りたいという意欲を見取することができる。

児童が中学校教諭に指導を受けることで、中学校教諭との関わりが生まれ、中学校生活への期待感や充実感へとつながっている。さらに、中学校への生活・学習面について、今の自分を見つめながら次の行動につなげている点は意義深いと考える。

【教諭のコメントより】

小学校

- 中学校の授業参観を行うことで、小学校の内容と中学校の内容が系統的につながっていることの確認ができた。
- 小中の教諭が、同じ視点で授業改善へ向けた意見交換が年を追うごとに活発になった。
- 中学校での様子が分かり、それを小学校で児童に伝えることで、中学校への「つながり」が意識できるようになった。
- 互いの授業がさらに参観できるチャンスがあったらよい。気軽に参観し合つて互いに「よい所」を取り入れられるような小中一貫だと教材研究、授業の改善が図られ、指導力の向上につながると思う。

中学校

- それぞれの視点から授業が見られることは大変意義深く、小学校の指導方法を参考にすることができた。授業研究会からも多くの学びがあった。
- 小学校の授業から自分の教科指導のアイディアが生まれたり、刺激を受けたりした。
- 小学校との文化の違いを知ることができたのは大きかった。お互いの価値観や指導の違いを知ることが大切だと思う。
- 小学校教諭の板書の丁寧さ、学級掲示物等、見習うべき点が多かつた。
- 生徒指導上の約束について学習規律やその他（テストの受け方や身なりについて）の発達段階に応じた指導の連続性を継続したい。
- 学習することが楽しくなるように、小中の教師が子ども達へ連続性のあつる指導ができたらよいと思う。

《考察》

小・中学校の教諭の成果から、3校の授業研究会は、

- ① 9年間を見通した学びを理解した。
- ② 小・中学校の指導方法を理解し互いのよさを認め合う意識の改善につながつた。
- ③ 教諭自身の授業の工夫・改善へ

の意欲が見られた。

3校の教諭が同じ視点を持ち、授業を参観しながら、意見交換をすることで、小・中学校の教諭がお互いを知り、お互いを理解することができる。

また、9年間の学びの一貫性に気づき、それを自分の授業に生かしていることは、教諭の指導力の向上へとつながっているものと考えられる。

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 共通テーマを持って研究することで、小中の教諭が各教科で「書く」を意識した授業を展開することができた。

また、「めあて」「自分の考え」「まとめ」という一連の学習の流れを共通理解し、児童生徒に習慣付けることができた。

- ② 「ノート指導の工夫」に取り組んだことで、教師は何のためにノートをとらせるのか、どのようにノートをとらせるのか、また、そのノートはどのような活用の仕方があるのかというノート指導についての内容が深まった。

児童生徒においては、自分の学びを振り返るためにまとめ方を工夫し、友達の考えと比較しながら、自分の考えをより確かなものへと思考を整理するという、主体的に学ぶ児童生徒の姿がみられた。

- ③ 「乗り入れ授業」を実施したことで、児童が中学校の授業の様子を知り、中学入学への不安解消へとつながることができた。

- ④ 「合同授業研究会」を実施することで教諭がお互いを知ることができた。

また、小学校でしっかり身につけて定着させる内容と、中学校で力を入れて指導する内容等を明らかにすることで、発展させる内容等を確認することができた。

さらに、9年間を見通した学習内容を把握することができ、小中間をどのようにつなげて指導を行えばよいのかについて確認することができた。

(2) 課題

- ① 小中の系統性をおさえ、毎日の授業にどのように生かしていくか、ノート指導をテーマに据えながら授業改善を図るための継続指導が必要である。
- ② 児童生徒がノートをもとにどのように学んだか、学びをどう評価するかについて、工夫と改善が必要である。
- ③ 乗り入れ授業実施について、教材研究の時間確保のため、年間計画に詳細な内容の位置付けをする必要がある。
- ④ 小中の教諭が互いの授業を参観し合っ、お互いに歩み寄りながら、教材研究や授業改善につなげ、指導力の向上へとつなげるようにしたい。

